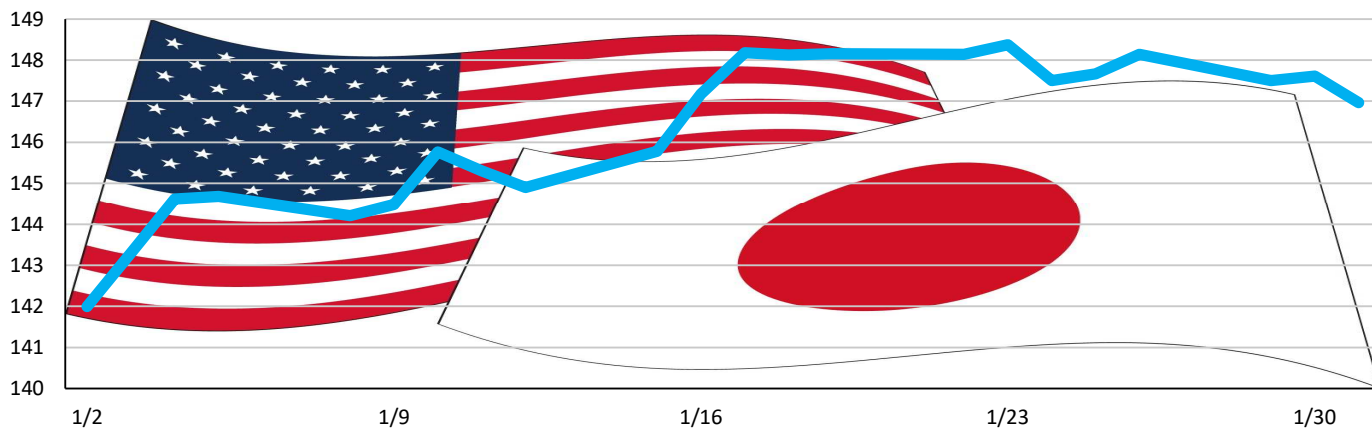


MONTHLY REPORT

先月の振り返り：1月のドル円相場は140円後半～148円後半で推移。新年早々、石川県能登地方で大規模な地震が起こり、日銀の出口戦略が遅れる見方が台頭したことや、良好な米雇用統計の結果を受けて円安ドル高の流れが強まった。さらに米CPIや米小売売上高などが市場予想を上回ったことに加え、ウォラーFRB理事の早期利下げに慎重な発言や、FOMCで投票権を持つアトランタ連銀総裁が早期の利下げはない、との発言が後押しとなりドル円は148円台に達した。その後は日銀植田総裁のマイナス金利解除についての発言が円買いを誘う場面もあったが、米経済指標発表内容の強弱で売り買いが交錯する動き。31日に米ADP統計などが市場予想を下回り146円まで急落したが、パウエル米FRB議長が米FOMC後の会見で、3月の利下げに否定的だったことでドルは買い戻された。

(円) 米ドル円為替レート(終値ベース)



MARKET REVIEW

原油需要：原油需要をけん引していた中国では、不動産不況が長引き景気減速懸念の高まりにより需要は低迷しているが、追加経済対策効果で景気が上向き、需要の回復が期待される。また米国では、これまでの利上げの影響で米国経済が一旦減速に向かうとみられるが、米FRBが段階的な利下げを開始し米国景気の持ち直しが見込まれるため、需要は大幅に減少することはないだろう。他にもフィリピンやカンボジアなどの東南アジア諸国を中心に高い経済成長が見込まれることも原油需要を後押ししていきそうだ。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
2 / 27 (火)	0 : 00	US	新築住宅販売件数	☆☆☆☆
2 / 28 (水)	22 : 30	US	米GDP改定値	☆☆☆☆
3 / 6 (水)	22 : 15	US	ADP雇用統計	☆☆☆☆
3 / 7 (木)	22 : 15	EU	欧州中央銀行 (ECB) 政策金利	☆☆☆☆
3 / 8 (金)	22 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
3 / 12 (火)	21 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆
3 / 14 (木)	21 : 30	US	小売売上高	☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。